

中外炉工業 次期社長



尾崎 彰氏

主に製造、調達など現場仕事を担当。35歳から5〜6年間、欧州で部品・部材の現地調達に奔走。

商品力・競争力引上げ

「当時、欧州などで熱処理炉の受注が増え、そのプラントの材料手当てを日本で行うと割高となるため、現地調達することになった。当時は外国語も拙く、まさに手さぐりで仕事をこなした」と振り返る。05年から3年間で、中外炉熱工設備（上海）の副董事長兼副総経理としても現地工場の立

ち上げに尽力した。4月1日付で社長に就任する。西本雄二・前社長（現代代表取締役会長）から昨年末、就任の打診を受け、これは運命と思った。ただ、昨年は米中貿易戦争で景気がやや停滞、年初は少し好転すると期待したが、新型コロナウイルスの世界的拡大で厳しい船出となった。ここは原

と。熱処理炉について、は化石燃料を対象にしたタイプから、水素やアンモニアなどを対象にした脱炭素タイプに切り替えていく。また、自動車業界はCO₂削減からEV、FCV化や軽量化を進めており、そのための材料を提供できる装置やプロセスの開発、市場投入をしていく方針。

価値を創造し、これを通じて社会に貢献する、という経営理念を全社員が共有し、社名の「中外」ではないが、国内外でさらに存在感を發揮し、成長していきたい」と未来を見据える。

（天野 充造）

▽尾崎彰（おさき・あきら）氏 1980年3月大阪府大工学部機械工学科卒、中外炉工業入社。17年4月取締役執行役員熱処理事業本部長、19年4月事業本部長取締役常務執行役員熱処理事業本部長。

点回帰し、商品力・競争力を地道に引き上げていきたいが抱負。経営戦略の軸は、環境を最大限に意識した取り組みを行うこと

営業もメリハリをつけていく。鉄鋼向けは国内がシユリンクしているの、海外で受注を拡大していく。自動車・関連部品向けは国内外ともに堅調なので、それぞれの顧客のニーズに合わせて、設備を提供していく。熱技術を核として、新しい

中・高校と陸上部、種目はハンマー投げ。趣味は読書、ジャンルは幅広いが、中でも、須賀敦子さんの随筆を好む。57年5月31日生まれの62歳、大阪府出身。